



△
在上海のコンパニオンより差出セル報告書

3657



414
A2348



大正十一年四月
隈侯爵郵寄贈



謹此一書ヲ呈シ以テ支那日本兩國ノ航海事業ニ付方今余カ眼
目ニ觸ルニ重大ノ事件ヲ詳細登録シテ以テ貴下ニ呈ス希クハ
熟考アラントシ

抑日本ノ國權ト日本ノ安寧幸福ト一途ニ占ムルニハ日本ノ
航海事業ヲ起ス極メテ緊要クベカラザルモノニシテ蓋シ利
害得失ノ関スル所之レヨリ大ナルモノハ無シ試ニ看ヨ日本ノ
位置タルヤ恰モ英國ノ地形ニ似テ一孤島タルヲ以テ獨リ國ノ
防禦護衛ノミナラス併セテ又國民ノ通商貿易ヲシテ愈張り愈
盛ナラシメンニハ重モ其海軍ノカト航海事業ノ勢トニ依ラ
スンバアルベカラス
余ヲ以テ之ヲ觀ルニ東洋諸國ニ先立チカノヲ前進ノ處置ヲ行
フハ日本ニトシテ愉ノ策ナルベシトス一旦斯ル處置ヲ施スヤ

忽テ近傍支那帝國支那 以及シ迅速施行セラレ、モノトテ今余ガ
 明言スルモノニ付確証ヲ奉ケテ以テ之レヲ示サン者ヨ執近來
 高ラフセシ高會ノ管理セシ上海汽船航海會社ノ船舶残ラズト
 同社一切ノ家産ヲ購買シタルヲ即テ是レナリ
 右船舶其外購買ノ一事ト米國ニ於テ新タニ一ノ汽船會社ヲ設
 ケ以テ上海迄ノ線路ヲ開クトノ傳聞ヲ合セ見レハ後來支那招
 高局ト三菱高會トノ景況果シテ如何ナルヤ且ツ兩會社繁盛奏
 功ノ期ヲ妨害スル所以ノ原因ヲ探偵指示スルノ時機至レリト
 云ベシ
 余夙ニ支那ニ在リ蒸汽船會社ノ長トナリ兼テ又船舶ノ所有人
 トナリテ英國海軍ニ於テ親シク船舶ノ事務ヲ管リシニ實ニ二
 十有余年相ツニ此緊要ノ趣旨ニ付昇見ヲ吐露スルニ足ルベ
 シ

支那招商局ノ儀ニ付テハ既ニ今ヲ去ルニテ五年前大久保公閣下
 ニ呈セシ社稱ヲ以テ直隸ノ總督ヲシテ此ノ局ヲ創立セシメタ
 ル所以ヲ詳細説キ尽セリ示來ノ景況ヲ以テ余ガ當時同公ニ明
 セシ昇見ノ果シテ正確ナルヲ証スルニ足ルベシ又此ノ招商
 局ハ純ヘズ事業ヲ擴張センヲ務メタリシト雖モ其實際ニ於
 ケルヤ頗ル損毛多キハ昭々トシテ明ラカナリ
 方今同局所有ノ船舶即テ左ノ如シ

船名	噸數	洋蒸汽船	河蒸汽船
双カラバル	七百六拾貳噸	壹艘	
フリーユ一	九百二拾噸	壹艘	
フンシヤン	八百六拾三噸	壹艘	
ハンキヤン	八百三拾八噸	壹艘	
ハンヤン	貳百六拾壹噸		壹艘

船名	噸數	洋蒸汽船	河蒸汽船
ホーテヤン	八百四拾九噸	壹艘	
ホウサン	七百九拾五噸	壹艘	
キヤンハン	千四百九拾九噸		壹艘
キヤンヤン	千五百拾噸		壹艘
リーユーン	七百三拾四噸	壹艘	
ポータア	八百六拾九噸	壹艘	
タアユー	四百拾九噸	壹艘	
ワレケン	三百拾五噸		壹艘
エーレン	七百五拾四噸	壹艘	
エンチン	六百六拾壹噸	壹艘	
エン	三百貳拾四噸		壹艘
合計洋蒸汽船	拾壹艘		

同河蒸汽船數五艘

外

船名	噸數	洋蒸汽船	河蒸汽船
チイリー	七百六拾三噸	壹艘	
フハヤクエーン	千百貳拾三噸		壹艘
フジヤマ	千百拾三噸		壹艘
フハイケョー	八百七拾九噸		壹艘
セラド	千八拾四噸		壹艘
ホナン	三百三拾九噸		壹艘
ホノハ	九噸		壹艘

蒸汽挽船「リ」ホシ「号」壹艘但「噸數」三百噸

帆前船「テ」シ「号」壹艘但「噸數」四百五拾六噸

上海蒸汽船航海會社ヨリ方今買入レタル船即チ左ノ如シ

船名	噸數	洋蒸汽船	河蒸汽船
キヤンシー	五百七拾四噸		壹艘
ミレワト	百八拾壹噸	壹艘	
プリモースロウク	七百六拾八噸		壹艘
ナンキン	八百五拾七噸		壹艘
ホーチン	六百四拾噸	壹艘	
双シヤンシイ	五百六拾壹噸	壹艘	
シヤンウン	七百貳拾四噸	壹艘	
シンキン	七百拾噸	壹艘	
サイチス	八百六噸		壹艘
双サイチユー	五百五拾四噸	壹艘	
合計洋蒸汽船數	七艘		
同 河蒸汽船	拾艘		

但シ之別表ニ口ノ船舶ヲ合算スレバ即チ左ノ如シ

洋蒸汽船數

拾八艘

河蒸汽船數

拾五艘

表中双印ノ分ハ旧船ニシテ使用ニ適シ難キモノヲ示ス

以上拾八艘ノ洋蒸汽船中ニ使用ニ適シ難キモノハ只僅ク三艘自

誣ノ分ハ皆現ニ沿海航海ノ用ニ供スルモノニシテ且ク一層簡

便ノ新蒸汽船ナリ

河蒸汽船之儀ニ付テハ上海蒸汽船航海會社ヨリ購買シタルモ

ノ中八艘ハ旧船ナレバ何レモ將來永ク航海ノ用ニ適スルモ

ノナリ

諸之レヨリ同局ノ形状ヲ查明スベシ千八百七拾五年六月三十

日附ヲ以テ支那株主ノタメニシタル軌道刊行之計算書ヲ

依レ即チ左

ニ示ルカ如シ

益金は今日天... 不西漕ノテメ... 付六「メイス」
ノ運賃ヲ北京政府ヨリ受ケ以テ其庇蔭ノ蒙ムトモ漸
ク蒸氣船運轉ノ諸費ヲ補フ足レリ

亦前條ノ資産ニ於ケルモ蒸氣船ノ代價其外右ニ屬スル諸費用
ヲ列載シ苟モ減價ガラ見積ラズ且ツ同局ノ家産器具ガ至テ
ハ實ニ其全價ヲ以テ計算セシモノニ係ハル是ニ依テ之レヲ觀
レバ前ニ陳述シタル蒸氣船ノ代價ハ全ク七拾三万貳千六百八
テイル九拾七ニアラスシテ三拾五万テイルノ上ニ出テザリ

同局ノ形勢一ニ茲ニ至ル千八百七拾五年ノ狀況實ニ良クシカ
ラス此年ノ終リニ方ツテ資本金貳拾万テイルノ以テノ保險
會社ヲ設立シ同局ト合併セリ想フニ此資本金貳拾万テイルノ即
チ同局ノ常用勘定ノ中へ算入シタルルベシ

収七

之レヨリ前キニケ年間支那沿海ニ於テノ船舶出入
稀有ナリシヲ以テ遂ニ同局ヲシテ諸外國商會ト共ニ等
害ヲ蒙ムラシムルニ至ニシテ本年ニ至リテハ愈々ノ迫ラ極
タルシガ幸ニ芝罘條約按スルニ卸便ノ在ルアリテ同局ノ船舶
條約ノ一カ若干ヲ使用スルノトナリ以テ直隸ノ總督ヲシテ此ノ猶ホ同
局ヲ扶助セザルベカラサルノ意ヲ生セシメタリ故ニ總督ハ直
シク此旨ヲ北京政府ニ諭シ天津芝罘寧波及ニ鎮江ノ稅関長ヨ
リ各拾万テイルノ同局ニ拂渡スベキヲ下命セリ實ニ此金額
合計四拾万テイルニシテ右ハ全ク李鴻章ガ其所持金三拾万テ
イルノ同局ニ預ケタルモノノ外ナリ果シテ然ラバ同局ニテハ
昨年總額七拾万テイルヲ受取リタリ而シテ此金額ハ全ク
漕ノ為メ受クル扶助金ノ外ナレバ總額ヲ以テ之レヲ現レハ
同局ノ形狀頗ル隆盛ト云ハルベシ

歳省

況果シテ如何ニシテハ 高會(上海) 沈袋(沈袋)ヲ購
買シ以テ来月三十一日ニ至リ半額トシテ百万ヲ捕
テ約セリ然ルニ此金額ヲ得ルニ極メテ難ク僅ニ拾八下
ルヲ手附金トシテ拂渡セリ實ニ此金額ヲ借入レン為メ上海中
西奔東走シテ岩崎(岩崎)澤ノ両氏ニモ此事ヲ請ヒタル後同
頭取ハ南京ニ赴キ昨今同所ニテ總督沈袋(沈袋)ノ補助ヲ得
テラカハト然ルニ沈袋(沈袋)復ハ當時痛ク疾病ニ罹リ近日官途
去スルトナレバ想フニ左メテ補助ヲ得ルニ難カルベシ支
那招商局ノ形状實ニ斯ク如シ余ヲ以テ之レヲ觀ルニ到底斯
如クシテハ此局ガ支那通商上ノ公益ヲ擴張スルニ補フ所
ニキ程ニハアラスシテ寧ロ此國ノ一大難事トモ云フヤモ
ニシテ且々費用ヲ重サヌルニ至ル看ヨ現ニ此局カ士人
船舶取扱ノ事ニ慣練セシメ以テ水夫(水夫)並ニ徴候ヲ
裁

收八

船一艘ニシテ支那人ノ之レヲ管理スルモノナシ支那
重モニ支那ノ吏員ヲ以テ之レヲ管理スト雖モ其船中ノ
潔又明快スベカラス其水夫オラ指揮スル回ヨリ拙者
日ニ勝ルナク先年臺灣役ノ際他國ノ軍艦近寄リシトノ傳聞
起ルヤ艦中ノ水夫皆狼狽遁逃セシ時ト全ク相異ナラズ
軍艦港内ニ碇泊スルヲ以テ常トナシ偶々海ニ航シ難風逆浪
遇ニ勇膽以テ之レニ對シ熟練以テ之レヲ凌カントスルニ
テハ常ニ熟練ノ足ラザルヲ覺ユ
及令ニ招商局ノ船舶管理方ハヨロシカラスト難モ同局ノ凡
タル獨リ艘數ノ多キ使用ニ適スル而已ナラス併セテ亦支那
國ノ有權ナル官吏ノ扶助ヲ受クニテ畏レサルベシ
者之レヨリ三菱商會ノ論及ニ想フニ同社ノ船舶ハ左
掲載スル所ノ誤算之ナカ

東京丸

善良ノ汽船ニシテ

適ス

玄海丸

修船ヲ加ヘザルニテ使用ニ供シ難

名古屋丸

良船ニシテ使用ニ適ス

廣鳴丸

同新

西京丸

同新

新潟丸

蒸気船トナスヨリモ帆前船トナス方一層使用ニ適ス

高砂丸

同新

神奈川丸

未タ使用ニ適ス

品川丸

同新

隅田丸

善良ノ汽船ニシテ使用ニ適ス

兵庫丸

同新

豊鳴丸

不分明

田村丸

未タ使用ニ適ス

東海丸

新製ノ鐵ヲ用テ能ク使用ニ適ス

社寮丸

良船ニシテ使用ニ適ス

敦賀丸

同新

九州丸

未タ使用ニ適ス

千里丸

新製ノ機関ヲ用ユレバ能ク使用ニ適スベシ

江龍丸

同新

玄龍丸

同新

明功丸

汽船トシテハ用ヒラレス然レ帆前船トナセハ能ク使用ニ適スベシ

萬里丸

同新

有功丸

同新

有龍丸

同新

難波丸

同新

赤龍丸

未タ要ル

ぬ丸

静海丸	同断
音龍丸	同断
大平丸	同断
扶桑丸	同断
蓬萊丸	同断
閑順丸	同断
千年丸	同断
平安丸	鐘破損シテ使用ニ適シ難シ
天照丸	使用ニ適シ難シ
清明丸	蒸気船トナシテモ帆前船トナシテモ使用ニ適シ難シ

余ヲ以テ之ヲ視ルニ三菱高會ノ船舶ハ右ノ表ニ掲載セル如クナルベシ右蒸気船ノ中大概ハ當今ノ形況ニ依レテ汽船トシテ使用スルベカラズシテ却テ帆前船ニシテ方一層利用セラルベシ

ぬ十

ヲ殊更ニ未墨ニテ記載シタラシ之ニ依テ以テ是ニ機械及ニ機関修繕ノ為メ絶ヘス非費ヲ裁ケルモ益ナク事ヲ知スルニ足ルベシ然リ而シテ之ノ帆前船ニ変セシセ右機械及ニ鐘ボノ古地金ヲ以テ斯ニ變更ノ費用ヲ償フテ尚餘リアルベシ

寧ロ現今ノ如キ改鴨（按スルニ難キヲ云フ）機関ボ破壊シテ航海ヨリモ帆前船ニ変シテ之ヲ用ル方同（社）トリ一層有益察スルモノナルベシ獨リ之レ而已ナラズ帆前船ハ現今ノ如キ破毀セル汽船ヲ使用スルヨリモ日本ノ貿易ヲシテ一層擴張セルムルノアルベシ

若シ日本人ヲシテ精練ノ水夫タラシメント欲セバ後令ニ汽船ニ汽船ヲ航通セシムルモ到底ニシテ老練セシムルハ不然ルニシレニ及シテ帆前船ハ日本ノ舟年ヲ此板

ニ入レテシテ言ハス水夫トシテ
テ不慮ニ裁ルモ勇膽怖レズ精心研テ効カス以テ精練 水夫タ
ラシメンニハ獨リ帆前船ニ依テ之レヲ学ハザレバ得ス然レニ
汽船ニ於ケルヤ機関ノ在ルアリテ航海方ニサシク意ヲ注ケバ
甲港ヨリ乙港ニ航通スル容易ナリト雖モ斯ク如クナレバ運用
術ノ本分ヲ尽クスト極メテ稀サナルハ勿論航海術ニ付何等ノ
裨益ヲ受クルトモ之レナシ

日本ノ位地タル島國ナルヨリシテ之レヲ視レバ實ニトオ
夫ハ精練ノ士ヲ以テ編制セシムルハアルベカラズ彼ノ日本古代
ノ和船モ亦深ク運用術ノ学識ヲ得ル所ノ学校ニアラズ看ヨク
船舶タルヤ僅ニ順風静波ノ日ニ當リ航行スルヲ得ルハ已
令此ボノ船舶ハ勇敢剛氣ノ士ヲシテ運用術ニ精練セシメ
ルヤ疑フ容レスト雖モ今ヤ日本ハ以テ捨テ河シキニ選リ以テ

収十一

洋船ヲ用ユルガ故ニ宜シク其水夫ヲシテ此才洋船ノ有益ナレ
所以ヲ通曉セシメサルベカラズ
外國ノ船將日本ノ水夫ヲ帆前船ニ使役スルモノアリ言ニ曰
ク日本人ハ世界中最良ノ水夫トナルニ適スルノ証跡アリト然
リ最良ノ水夫トナル萬々疑フ容レス
是ニ依テ之レヲ觀レハ日本ハ帆前船ヲ求メ以テ運用術
セシメンガ為メ精練ノ水夫ヲ編制セザルベカラズ故ニ余ハ帆
前船若干ヲ取設ケラレントテ辯論ス
亦一步ヲ進メテ論及セン日本ノ木材及ヒ石炭ノ貿易ヲ為スニ
モ帆前船ヲ以テ之レヲ運搬セザレバ廣ク貿易ノ道阻達セザル
ベシ蒸気船ヲ用ユルハ固ヨリ帆前船ヨリ利益薄ク殊ニ木ノ
貿易手ニ至テハ最モ甚シ其然ル所ヲモハ他ナシ蒸気船ハ
船積ノ時間ヲ短クニスルヲ得ザルハ其才洋船中機軸ノ

在ルアリテ大形ノ木材ヲ運ボシ難ク、木材ノ陸揚ケルマテ
時間ヲ費ヤスモノナルヲ以テ漸ク蒸気船ノ費用ヲ償フニ足ル
カ故ナリ

三菱商會ノ設立方及ニ管理方ニ付テハ想フニ依然其位置ヲ動
サス飽マテ其社ヲ維持セシムハ宜ク今日ニアルモノヨリ一変シ
テ更ニ職務ノ規律ヲ製定セルラ良シトス

仮令ニ世界中各國ニ亘リ蒸気船取扱方ニ付更ニ一ニラ年セザ
ルノ人ヲ撰擧シ以テ其人々ノ全ク手慣レザル事業ヲテ
誤謬ナク取扱ハシメンコトヲ望ムハ實ニ出来難キコトナリ是レ

世界各國ガ数年ノ経験ニ依テ能ク知ル所ナリ
然レ氏一時ハ斯ル事ヲ行ハル、コトアルモノナリ夫ヨリ及商會
ノ如キハ既ニ數年間營業セシモノナルカ故ニ僅ニ其日ヲ追
フテ相續スルモノナレハ其事業タカクテ容易ナリ然リ然

收七

氏物變リ且移リ時日ノ變遷ハルニ隨テ物事凝滞シテ意ヲ如ク
行ハレズ今ヤ三菱商會ノ事業次序ヲ失フコトヲ紛々然言ヘ
ノ實ニ辨サナラス今試テ西京丸(子バタ号)ノ一例ヲ擧ゲテ之
ヲ証セン

抑モ西京丸昨上海ニ航行スルニ方ツテヤ横濱ヨリ銃包箱數個
ヲ運搬シテ之レヲ上海ニ持来セシヲ以テ港内ニ入ルヤ
シテ遠ク教理ヲ隔テ強留セラレ殆ント二十四時間ヲ空消シ日
没迄モ波戸場ニ近クテ得スシテ其日遂ニ荷物ヲ陸揚スルノ
暇之レナカリシナリ然ルニ其銃包箱ノ運賃ハ僅ニ拾五弗若シ
クハ貳拾弗ト上ニ出テスト次テ一歩ヲ進メテ屬吏ノ勤怠如何
ヲ見ヨ到底屬吏職務ノ制規定マラザレバ各隻船舶ヲ管理スル
ノ如何又以テ信スベカラザルカ故ニ船將ハ晝夜共ニ眠スル
コトナレ依テ更ニ船將ニ付共ニルニ、故ニ地エルノ屬吏ヲ撰擧

スルノ權ヲ以テセザルベカラズ
亦船中ノ食料其外ノ費用過分ト云ハザルベカラズ隨空費ニ
歸スルモ、願フル巨額ナルヤ必セリ彼ノ高砂丸並ニ新造
西汽船ヲ英國ニ送リテ機械新製ノ為ニ費ミタル金額ハ最モ
顯然タル空費ト云フベシ實ニ此等ノ船舶ハ旧船ナリ新ニ機械
ヲ造製シテ之レニ付スルニハ真ニ巨額ノ金ヲ浪費スル是レ
彼ノ歐洲ニアル諸蒸気船會社ガ旧船ヲ變スルヨリモ新造ノ
蒸気船ヲ購買スル方々々得策ナル者ヲ論スル所以ナリ
當今ノ如キハ斯ク迄蒸気船ノ價格下落セシメテ止マシム
敦及ヒリバプルーニ於テ販賣ニ供フル新蒸気船實ニ數里ニ達
ナルノ日ニアツテハ別ニテ購買セスレバアルベカラズ
此等兩蒸気船ノ機械新造ノ入費ヲ以テスラ尚善良ノ新造船
ヲ購買スル金額ヨリモ多キニ居ルベシ然レニ依然此ボノ船

水十三

ヲ變セスシテ帆前船ニシテ使用スル時ハ日本水夫ヲシテ航海
術ニ熟達セシメ又以テ日本ノ沿海貿易ノ用達セシム
モノナリ誠ラス若シ此ボノ如キ旧製ニシテ使用ニ適シキ船
船ニ用ユル為ニ只僅ニ機械ヲ新造スルモ始終ノ入費サナクモ
凡ソ三十萬圓ヲ要スベシ
英國汽船會社ノ巨擘タル英國郵船會社ガ常ニ此ボノ
ヲ示サンガ為メニ茲ニ今同社ノ例ヲ引テ以テ之レヲ証セン試
ニ看ヨ近頃三千五百噸積ノ汽船ナル「マルク」号ヲ英貨六千七百
封度ニテ販賣セリ實ニ此六千七百封度ハ機械ノ價值大而已
然ルニ此汽船ノ原價ハ英貨拾五萬封度ノモノナリ右ハ僅ニ一
例ヲ奉クル迄ナレ氏此外尚同社所屬ノ旧汽船數艘皆同様ニ依
ツテ販賣セシメハ余ノ能ク所ナリ譬ニ別紙ニ詳記スル汽船
「ムールタン」号ハ英國中最上良船ニシテ方今賣物トナシ凡ソ

貳萬封度ニテ購買スルヲ得ベシハ原價拾三萬封度、
モノタリ且ツ此船舶ハ近來改正シタル蒸氣機関ノ設ケ之レア
ルカ故ニ完備、モノタラシメンニハ只僅ニ新製ノ罐ヲ要スル
而已故ニ此費用壹萬封度ヲ加ヘ合計洋銀九拾四萬弗ヲ以テ
右三千噸、良船一艘ヲ英國ニテ手ニ入ルヲ得ベシ是レニ依
テ之レヲ視レハ此費用ハ僅ニ彼ノ「デルタ」号其外ノ機械新造費
ノ半額ナル而已謹言

在上海

千八百七十七年二月十四日

デヨン、ポットマン

太政官大史費下

「ム」ロタン号蒸汽船

- 第一 船体ノヨキ尋常ノ新船ニ勝ル萬々ナリ
- 第二 罐ハ全ク破損シテ僅ニ其古鐵ノ價値アル而已但ニ
重量貳拾五磅アリ
- 第三 新製ノ罐ハ重量五拾磅ニナスベシ且ツ其費用
千封度ヨリ壹萬封度迄ナルベシ
- 第四 石炭ノ消費高ハ従前ノ罐ヲ用ヒタル時一日九ソ四
拾五噸ナリ
- 第五 汽船(但シ一時間十里ヲ走ル)新製ノ罐ヲ用ユル時ハ
石炭ノ消費高一日貳拾噸ノ上ニ出テザルベシ
- 第六 新製ノ罐ヲ用ユル時ハ石炭置場ヲ減シテ荷物積場
ヲ増スカ故ニ此重量殆シト貳百噸ニ至ルベシ

第七

機関ハ高低二重ニシテ、ハムダトレイス及ヒ、アムナ
ントノ両氏之レヲ製造シ、一トシテ完全ナラサルハ
無シ但シ此原價ハ英貨三萬千五百封度ニシテ一馬
力毎ニ七拾封度ノ割合ナリ且ツ總馬力四百五拾馬
力ナリ

第八

汽船ハ倫敦ノ造製ニシテ且貳拾年間第一等ノ船々
ル許可ヲ得ベシ

第九

積込ノ噸數ハ船底千噸正甲板六百噸ナリ

第十

汽船ノ原價拾三萬封度ナリ

荷積、後船底水中ニ入ル、貳拾「ヒ」トナリ

